

温泉成分等揭示表

1. 温泉名		泉8号泉(熱海市泉元宮上分字西山17-13)			
2. 温泉の泉質		単純温泉(低張性・弱アルカリ性・高温泉)			
3. 温泉の温度		49.5℃	4. 温泉を公共の浴用に供する場所における温泉の温度		41.0℃
5. 温泉の成分 (pH 8.3)					
		mg/kg			
陽イオン		陰イオン		非溶解成分	
リチウムイオン		ふっ素イオン		メタ亜硫酸	
ナトリウムイオン 138.5		塩素イオン 181.2		メタケイ酸 54.6	
カリウムイオン 8.8		臭素イオン 0.2		メタホウ酸 2.7	
マグネシウムイオン 0.3		チオ硫酸イオン			
カルシウムイオン 106.3		硫酸イオン 262.4			
ストロンチウムイオン		炭酸水素イオン 43.7			
マンガンイオン		炭酸イオン 9.8			
鉄(Ⅱ)イオン 0.2		ヨウ素イオン			
銅イオン		リン酸水素イオン			
				溶解ガス成分	
				遊離二酸化炭素	
				その他微量成分	
				アルミニウムイオン 0.03	
				臭素イオン	
				水酸イオン 0.034	
				総リン酸総リン <0.03	
				鉄(Ⅲ)イオン <0.05	
				総硫化水素 <0.1	
				総ヒ素	
				アンモニウムイオン	
				チオ硫酸イオン <0.1	
				マンガンイオン <0.01	
				メタ亜硫酸 0.062	
				リン酸水素イオン	
				ヨウ素イオン <0.05	
				銅イオン <0.01	
				総成分	
				0.809 g/kg	

6. 温泉の成分の分析年月日/平成16年9月21日	12. 浴用の禁忌症
7. 登録分析機関の名称及び登録番号/ 財団法人静岡県生活科学検査センター理事長 石川達郎 静岡県第1号	(1) 一般的禁忌症 急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、心臓病(ただし高温浴(42℃以上)の場合)、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、高度の動脈硬化症(ただし高温浴の場合)、高血圧症(ただし高温浴の場合)、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)
8. 【浴用の有無とその理由】 加水の有無: 有/加水の理由: 温度管理上。 (全浴槽)	13. 浴用の方法及び注意
9. 【浴用の有無とその理由】 加水の有無: 有/加水の理由: 温度管理上。 (全浴槽)	1 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。その後は1日あたり2回ないし3回までとすること。 2 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。 3 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯ざわり又は浴湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。 4 以上のほか入浴には次の諸点について注意すること。 (1) 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めはお分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。 (2) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。 (3) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。 (4) 入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。 (5) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。 (6) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。 (7) 飲酒しての入浴は特に注意する。
10. 【浴用の有無、石湯の有無とその理由】 循環の有無: 有/ 石湯の有無: 有/石湯の理由: 衛生管理上。 (全浴槽)	
11. 【入浴時の注意の有無及びその理由】 入浴時注意の有無: 無/ 【入浴時の注意の方法とその理由】 入浴時の注意の有無: 有/入浴時の注意の理由: 衛生管理上により入浴パンフにて 自動注入 (全浴槽)	
【温泉利用許可番号】 熱保衛第189-3号23【取得年月日】 平成18年5月10日 【許可を受けた者】 静岡県熱海市紅葉が丘町7-6有限会社飯塚商事 【利用を供する場所】 熱海市紅葉が丘町7-6「山の上ホテル新館」 浴室4、浴槽6	